時の流転の弧の上を 起伏知らぬ運命こそ

流れて尽きぬ濁流よ

あは

れ雪解のましみづに

若き草木のさゆらぎに 輝くまでに萠え出でし 未知のひろ野のかぎろひて

春深き日の逍遙や

かぎりて走る山並に 澄みて雲なき空と野を

躍る血潮の真夏日陽よ 高き心のをののきは

> 銀の香炉 楡の繁みに交らへば

にし

のび雨が

命のち 大天地も 傾きて かなしき秋なれ や

Ŧi.

真理の水の人掬

「なっていますで
をなっていますで
なっていますで
なっています。 求めてやまぬ瞑想よ 夜毎にさゆる窓の星

げに 憧憬 深き安息の夢やすく 芸術の霊ぞただよへるたべみ 「の精ぞみなぎれる の地やここに

> 牧原東洋男君 高橋 北雄 君 作曲 作歌